

【リレー橋友録：私の橋歴書 (1139) 「知覚動考」

株式会社オリエンタルコンサルタンツ 構造部・高度化推進部部长 増田貴充氏】



リレー
橋友録
私の橋歴書

<1139>

平成5年、大きな橋の設計を希望し、オリエンタルコンサルタンツに入社しました。

入社して30年、あらためて振り返ると、非常に恵まれた橋歴であったと思います。

入社後、中部支社(名古屋)に配属され、最初(古屋)に従事した橋梁設計が名古屋ガイドウェイバス下部工の設計でした。Y字形の特異な形状を有する橋脚であったため、FEM解析を用いて橋脚梁の耐震設計が大きな見直しとなりました。

また、平成7年には兵庫(庫裏)南部地盤が発生し、新しい耐震設計について道路橋示方書が手塚で真っ黒になるまで読み込んで、先輩や同僚と議論しながら設計を行いました。

その後、PCエクストラード・スト橋の設計、災害復旧に関連した架け替え設計、新東名高速道路の新技術・新工法を活用した設計、PC中央版橋の設計等、いろいろな橋梁の設計に携わることができ、感謝の気持ちでいっぱいです。

知覚動考

(ともかくうごこう)

株式会社オリエンタルコンサルタンツ

関西支社副社長 (兼)構造部部长 増田 貴充

その後、PCエクストラード・スト橋の設計、災害復旧に関連した架け替え設計、新東名高速道路の新技術・新工法を活用した設計、PC中央版橋の設計等、いろいろな橋梁の設計に携わることができ、感謝の気持ちでいっぱいです。

息子にも「お父さん、感心する。数年前に「知覚動考」が設計した橋」と言え、仕事(ともかくうごこう)が忙し、息子のコミユニケーションが不足した。自分の職業人生を振り返ると、非常に忙しく、流れるは速く、変化が激しい。

これは「知って、覚えて、動いて、考える」成長プロセスを現した言葉ですが、知って覚えたことをすぐに行動に移す「やってみよう」というサイクルを考えると実感しています。

次回は、関西支社に異動になってから、大変世話になっていく大日本西バイコンサルタントの西本相様様にバトンタッチさせていただきます。

その後、PCエクストラード・スト橋の設計、災害復旧に関連した架け替え設計、新東名高速道路の新技術・新工法を活用した設計、PC中央版橋の設計等、いろいろな橋梁の設計に携わることができ、感謝の気持ちでいっぱいです。

また、国の詳細設計業務で管理技術者として従事する橋歴版に名前が、書いていたのだと感じています。

現在は、就業環境改善が掛けられ、厳しい時間制約の中で、何とか結果を出そうとして頑張っている若手技術者に対してこの言葉を伝えていきます。

現在は組織をマネジメントすることが主な職務ですが、若手技術者には夢のある仕事であることを伝えることも、多少不安があったとしても、やってみよう。出せる技術者になってほしいと日々考えています。

今後も、仲間と共に橋梁の規模、新設・保全等に関する仕事を継続、伝承していきたく思います。